

謝^{シエイ}謝^{シエイ}

〜ありがとう〜日本のお友達へ



幸田町役場での歓迎会を終えると、一行は南都中学校へ向かいました。

校門には「熱烈歓迎!」の大きな横断幕、中国と日本の国旗を左右に大きく振った南中生が盛大に出迎えました。

中国の生徒とホストファミリーの顔合わせでは、まだまだ緊張した様子。言葉もなかなか伝わらない中、身振り手振りで一生懸命にコミュニケーションを取る姿が見られました。

山並み、街並み、学校の校舎、生徒の制服、普段の何気ない景色でさえも写真に収める中国の生徒たち。当たり前前の景色がいかに大切なものなのか気付かされます。

各ホストファミリーの家庭では、日本の実際の生活文化を肌で感ずることができたことでしょう。翌朝には、前日とは違って変わってリラックスした表情で登校してきた姿が印象的でした。

線香花火を自分たちで作った理科の授業、家庭科では日本の伝統的なお菓子である「おはぎ」作りにも挑戦。音楽の授業や部活動も体験しました。

給食も初体験です。中国の料理に比べるとやや薄味とのことですが、「ハオチー(おいしい)」と大好評でした。日本の文化が受け入れられていることを実感した南中生は、自分たちから積極的に中国の生徒に話しかけることができました。

限られた時間の中で、より多くの交流を図りたい、そんな思いが南都中学校全体から感じられました。

まだまだ小ぶりなあじさいの花が少しずつ色付き始めた6月11日。少し緊張気味の中学生や引率者に乗せたバスが幸田町役場に到着しました。

昨年度に引き続き、中国の南昌市第一中学の生徒12人と引率者4人が、再び幸田町を訪れたのです。

幸田町から中学生を海外に派遣し、「より幅広い視点で物事を考えてもらうこと」を目的とする幸田町中学生海外派遣。

この8月で23回目を数えるこの事業は、一昨年から中国への派遣となりました。

そして、昨年12月、初めて幸田町が受け入れ側となる交流事業が実現しました。

中国に行くだけでなく、日本に招いて自分たちの国や町のことを伝えることで、改めて中国との文化や生活の違い、自分の住んでいるまちについて深く考えることができました。

そして、この試みが今まで以上に深い「心と心のつながり」を生み、今年度もさらなる交流を図るため、南昌市第一中学の生徒が再び幸田町を訪れました。

南昌市から訪れた生徒らは、6月11日から13日までの3日間、南都中学校の生徒の家にホームステイをしました。

その滞在期間中に南都中学校でさまざまな交流会、意見交換、授業や部活動の体験をしながら、日本の生活文化について学びました。

中国南昌市第一中学 親善交流





ジョン チン
熊清之さん

私は今回、日本に来ることができて大変うれしかったです。ここの景色はとても美しく環境がとてもいいです。人々は大変礼儀正しく、私は幸田が大好きになりました。私の日本の感想は、人々はとても親切で勉強を一生懸命頑張っているということです。日本のお友達と別れるときは、とてもつらかったです。私は今回の訪問を決して忘れることはないでしょう。

この3日間で、南昌市第一中学の生徒は何を感じ取ったのでしょうか。今回、南昌市の生徒3人からお手紙をいただくことができました。

次に、中国の生徒たちが、色鮮やかな衣装を身にまとい、傘を使った伝統の舞を披露して感謝の思いを伝えると、南中生から大きな拍手が贈られました。

お別れ会では、南中生から気迫あふれる「南中ソーラン」が披露され、その一糸乱れぬ動作と大きな掛け声が、体育館いっぱいに広がりました。

もっといろいろな知りたいな。両国の生徒が感じていたことでしょうか。充実した時間はあっという間に過ぎました。

フルーツバスケットというゲームで楽しくコミュニケーションをとったり、お互いの国のことで聞きたかったこと、また同年代の中学生として今頑張っていること、将来の夢などを語り合いました。

最終日には幸田中学校や北部中学校の生徒も南部中学校を訪れ、交流会をしました。



ジョン チェン
熊清之さん

今日、私たちは日本の幸田町の南部中学校に行って、日本のお友達と一緒に授業を受け、とても楽しい学校生活を過ごしました。日本のお友達は私に思い出深いものをくれました。理科では花火を作り、家庭科ではおはぎを作り、日本のお友達の友好と情熱を感じました。言葉は通じなくても意志の疎通はできるのだなと思い、とても楽しい時間を過ごしました。機会があればまた日本に来てお友達と交流をしたいです。



フェイ シュエン
付奕軒さん

この3日間のホームステイは私が一生忘れることができない思い出です。ホームステイを体験した家庭では家族の人たちが大変明るく、私たちをお客さんとしてではなく、自分たちの子ども、兄弟のように接してくれました。私たちのために毎日おいしいごはんを作ってくれたり、ケーキを作ってくれたりしました。ホストファミリーには妹がいて、とてもかわいかったです。一緒に楽しく遊びました。また、私をいろいろなところに連れて行ってくれ、とても幸せな気持ちになりました。私は今回の体験を通じて、日本の文化に触れ両国の違いを少し理解できた感じがします。体験授業では言葉は分からなかったけれど、中国の授業との違いも少し分かりました。

「幸田が大好きになった」
「両国の違いが少し理解できた」
「言葉は通じなくても、意志の疎通ができた」
今回の交流の意味が詰まった言葉だと思えます。

最終日に見た南中生の姿も、あのあじさいのよう、この3日間で日に日に色付きを増し、一回り大きく成長していました。

問合せ 学校教育課 学校教育G

(内線422)